

透視像



逢坂 初芝澄雄

前回、散歩について書きました様に、新宿の昔話を読んでいて興味ある話を知りましたので、散歩をかねて行ってみました。話しは奈良時代の事です。小野美佐吾と言う武蔵の国司が任地を歩いていて、一人の女性と知り合いました。そして都に帰ってから忘れ難く、国司は恋に落ち自殺してしまいました。そして亡骸を女性の住む土地にとの遺言を残したそうですが、家人は奈良に葬り地名を武蔵野と変えたとの事です。くだんの娘さねかずらは、この知らせを受けて、近くの沼に身を投げたとのことでした。

私はこれを読んで地名が市谷にあるかと地図を見て驚きました。市谷船河原町があり、逢坂と言う名前も残っていたのです。そこで早速散歩に行きました。JR飯田橋下車、神楽坂の入口で、初めての横道を左折しました。丁度、東京理科

大の裏にある細い道の様でした。幾つか道が交叉し、やがて逢坂と言う説明標識があり、先に書いた内容が明記されていました。私はただ立ちつくしました。この辺りは江戸時代初めは梅の木が多く、二代將軍秀忠公が、中国の梅の名所の名を取って、近くに瘦嶺坂ゆうれいざかと地名を残している事も、説明標識で知りました。別な話ですが最高裁長官の公邸もすぐ近くにあり驚きました。

逢坂を下った所が外堀通りですから、市谷の濠が直ぐ見えます。きっと此処が昔、沼と言われていて娘さんが身を投じた所に違いないと思えました。とにかく奈良の昔に思いを馳せながら、外堀通りを牛込見附に向かいました。此処まで歩けば下車した飯田橋駅は直ぐ近くです。ついでですが、今牛込見附と書きました様に飯田橋の前の通りは牛込見附の通りで、堀端に古い石垣が残っていて、昔牛込門があった所と説明板にありました。市谷門の隣は牛込門だったのです。

編集後記

(α)

前号に続く通巻600号記念特集のテーマに、多数の方々から原稿が寄せられました。聖路加の日野原重明先生は、百歳を迎える来年も、なお現役の医師として働ける喜びと感謝を。岩崎哲先生は、アツツ玉砕と同じ悲劇を追うかと思われたキスカ島での軍医生活と奇跡的な撤退の体験を今なお生々しく綴られました。また医師としての使命と喜び、医家芸術によって畢生の研究や趣味の世界の充実が可能になった——と、嬉しい声も。記録的な暑さも台風9号の雨で、首都圏は一息つきました。しかし写真展、コンサートをはじめ各部イベントの準備はこれから最大の難所です。一部、その内容を紹介しました。ぜひ各部交流もかねて、会場へ足をお運びください。次は文芸特集、季刊としては1月下旬の冬季号(イベント特集)まであります。実りの秋をお迎えください。